

## 同窓会30年

第3期 鎚木（大江）孝子その当時、職場が京都大学の近くにあり、今ほど個人情報にうるさくない時代だったので京大全職員の名簿がありました。たまたまその本のページをめくっていたら中学高校で一緒だった矢富さんの名前を見つけました。それから研究室に電話をかけ、何回か遊びに行って世間話をしていました。それを見ていた夫が「同窓会を開いたら？」と言い、私もついその気になりました。

まず人選から。矢の原会名簿3期のうち、近畿周辺を探し出したところ約100人。その頃年賀状を印刷する時に使っていた“プリントごっこ”で往復はがきを1枚ずつ印刷し、100枚程出した内ほぼ50枚が宛先不明で返ってきて残り50枚返事がありました。

家族を巻き込みながらも当日を迎えました。全出席者は24名。京都大学楽友会館での第1回は顔と名前が一致せず、しかしあちこちの輪で楽しそうな声。1回で終わっても良いという気持ちでした。軽食を取りながら「大阪の人が多いから次回は大阪でしょう。」という声が出てほっとしたものです。1988年昭和63年、40才の時でした。

およそ年1回開くことになりました。平成5年第6回は奈良。今は無い日吉館でその当時寝たきりになっておられた名物おばあさん指導の下具材を切りそろえたすき焼き。正倉院展見学。第11回は金沢。夫が車で送ると言うので昼食も紛れて一緒にすることにしました。多分皆が皆顔を覚えていることはないので「何ルーム？」と聞かれるから、普通の学校は1クラスが「組」だけど南高は「ルーム」だから、ルームで答えるようにと言いました。夫の隣に座った方との会話で当てはまらない数のルームを言って煙に巻いたこともありました。阪神大震災の時には少しでも神戸に寄与しようという案が出て、ルミナリエを見学しました。第28回は松江古希プラチナ会と一緒に松江で120人からの出席でした。

東京から夫妻での参加もありますが、毎回出席の方が約10数名。その方々を核に多かったり少なかつたり的人数です。

始めてから30年余り。多分皆もこれほど長く続くとは思っていません。3年間共にしたという安心感。社会生活では上下関係があってもこの場では皆対等。教えていただいた先生方の話。物故者への想い。「今の若い人は・・・」と同じ話題でも楽しいものです。

コロナ禍で2年間会うのは避けましたがウェブ会議という方法を考え出し、月1回都合のつく方参加。2021（令和3）年3月から始まり令和4年10月で21回を数えました。

同じ令和4年10月、2年振り第34回を京都駅近くで同窓会を開きました。松江からも5人参加があり、前日には滋賀県のみほミュージアムを見に行きました。

30年前は連絡方法がプリントごっこ印刷。2000年頃からパソコン、携帯メールアドレス、今ではウェブ会議。これからどんな風になってゆくのでしょうか。元気なうちに会えるのを楽しみにしていきたいと思います。

3期の矢の原会理事兼旧職員の山田忠男です。関西地区（西は神戸、東は名古屋と広範囲で活動している）に在住している3期生について他の卒業生の皆さんにも是非この組織を知って貰いたくて中心になって支えて来られた鎚木さんに執筆して貰いました。